

新宮町におけるフットパスコースの設定に関する考察

九州産業大学 学生会員 ○車永キン
九州産業大学 正会員 山下三平

1. はじめに

近年、森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くイギリス発祥の「フットパス」が、日本においても整備されてきている¹⁾。ところで福岡市に隣接する新宮町は、東に立花山をもち、市街地をはさんで西に松原と海をもつ。都市と自然の要素が程よく共存している。新宮町の東西を結ぶ交流ネットワーク軸をフットパスの整備によって強化することは、東西の人的交流を促す効果が高いと期待される。そこで、本研究は現地調査に基づき、新宮町にふさわしいフットパスの可能性について考察するものである。

2. 研究方法

まず、新宮町をひたすら歩く。そのとき地元の住民と直接対話をする。また新宮町の産業振興課にヒアリングをして、フットパスに関する取り組みを調べる。以上に基づいて、フットパスコースの案を考えコースのマップを作成する。

(1) 対象地域について

新宮町(図1)²⁾は福岡県の北西部に位置し、福岡市の東部に隣接する。総人口は24,429人、総世帯数は9,186世帯で、住宅地としてのみではなく、商業地や工業地などが数多く立地している³⁾。この町は固有の歴史と文化があり、またそこで生産される様々な農作物、果樹、花は季節毎に様々な風景を彩る。神社やお寺など歴史的・文化的資源も多く残されている。



図1 新宮町(ArcGISをもとに作成)

新宮町は、近年、急激に人口が増加している。その一方で上述のとおり、東西の人口に不均衡が見られる。東西の人的交流と、さらには近隣からの訪問者の増加を目指した、フットパスの整備が期待される。

(2) フットパスの要件

新宮町のフットパスには、2つの要件を満たす必要がある。一番大事なのは地域の特徴的な事物を適切に取り込むことである⁴⁾。そうして、多くの人々が来たくなるようにしなければならない。また、フットパス利用者にとっては、初めてでも迷わずに歩け、各種の情報を直ちに得られることが必須である。情報を事前に知ることができる、コースマップが必須アイテムである。

(3) 検討の方針

本研究では、フットパスの利用によって来訪者に貢献するだけでなく、フットパスを作ることで、地元の人々が地域資源を発見するとともに、地域の人々自身の絆を強める働きを重視する。こうして、新宮町に長年住んでいる人々が、町の魅力や歴史を多くの来訪者に伝えて、地元の矜持を高め、地域振興の主役になることができるように配慮する。

新宮町のフットパスコースを決め、マップを作成することは、たんに来訪者の便宜のためだけでなく、常に改善することを前提とし、地域を見る地元の人々の目を養う素材としての役割をもたせる。

ところで、現在、日本国内のフットパス先進地の多くは、活動を支える組織体制をもっている。北海道黒松内町の「黒松内町フットパスボランティア」、熊本県美里町の「美里フットパス協会」、東京都町田市の「NPO法人みどりのゆび」などの例がある¹⁾。新宮町においてもフットパス普及のための組織を結成し、町役場が連携してサポートする体制が不可欠である。

3. フットパスの提案

以上を踏まえて、自然の景観、歴史や文化を活かした3つのコース「歩行する川コース」「自然に遊ぶコース」「偉人の足跡・歴史探訪コース」を提案する。「歩行する川コース」は市街地の真ん中を流れる湊川の左岸側

にのどかな田園風景が広がっている。綿津見神社など様々な史蹟・寺院が残っている。田園風景と歴史資源をあわせて楽しめるコースである。「自然に遊ぶコース」自動車交通が多い3号線沿いから離れて、緑あふれる森林と沿岸美を誇る場所として有名な新宮海岸など、自然の魅力が感じられるコースである。最後に、「偉人の足跡・歴史探訪コース」は、新宮町の歴史足跡に沿いに設定されて、町民が町内の歴史、文化を訪ねるコースである。本稿では以上の3コースの中から、「偉人の足跡・歴史探訪コース」をとりあげ、以下に詳述する。

表2 偉人の足跡・歴史探訪コース (図2を参照)

代表例の名称	代表例について紹介
1、千年家	17世紀中頃に建てられた九州で最も古い民家の一つ。平成14年度に文化・文政期(1804~1829)の姿に復原整備しました。最澄が寄宿したと伝えられ、その時残した法火を千年以上守り続けていたことから「千年家」とも呼ばれている。
2、そびあしんぐう	新宮町や福岡県北部の文化振興の拠点として、また広域的な利用に供する施設を目指す。文化コミュニティセンターで、大ホール(595席)や、研究室、創作室など、どんなシチュエーションにも対応できる様々なアメニティ設備がある。
3、シーオーレ新宮	新宮町には、夜白貝塚や相島積石塚群をはじめ最澄ゆかりの独結寺や横大路家住宅(千年家)、中世の山城・立花城や江戸時代の朝鮮通信使など、語り尽くせぬさまざまな歴史がある。「シーオーレ新宮」4階にある「新宮町立歴史資料館」では、そんな町の歴史について、模型やパネルなどを駆使し、子どもにも理解できるよう、ていねいに説明している。
4、太閤水	太閤秀吉にゆかりのある井戸。九州平定の際に訪れた秀吉が、この井戸で点てた茶を飲み、「非常に清い」と喜ばれたと言われる。
5、川上神社	原上・三代両区の産土神として祀られている。境内には、樹高32m、周囲8.5mのくすのきの巨木(町指定文化財)や神社の祭祀などで使われた石積井戸が残る。
6、独結寺	最澄が、帰朝後最初に開いた寺と言われる独結寺。古賀の浜にたどり着いた最澄が、霊地を求めするために独結と鏡を投げ、この地に落ちたことが由来とされている。
7、六所宮	立花口の産土神。立花道雪は六所権現の崇拝が厚く、出陣に際しては戦勝祈願をしたと伝えられている。
8、梅岳寺	梅岳寺ははじめ『花谷山神宮寺』とっていった。立花氏の菩提寺で、1575年(天正3年)立花城主立花道雪の母を葬りその法名にちなんで養孝院梅岳寺と改称した。現在では、道雪、道雪の母、家臣の薦野増時の3人の墓が残されている。

図2に「偉人の足跡・歴史探訪コース」のマップを示す。新宮町の中心部から東部地域にある梅岳寺、横大路家住宅、太閤水(表2)⁵⁾などの歴史ある文化財を探訪するとともに、廃止された公民館や古民家など、随所に残る古い町並みを巡るルートである。全長約6キロメートルであり、約150分で回ることができる。近くの立花山の自然の風景を楽しむこともできる。また町内の歴史、文化を伝える施設である「そびあしんぐう」や「シーオーレ新宮」が中心部に立地しており、町内の伝統的な魅力を発見し、伝統文化の継承や文化芸術について、これらの施設に立ち寄って学習することも可能である。

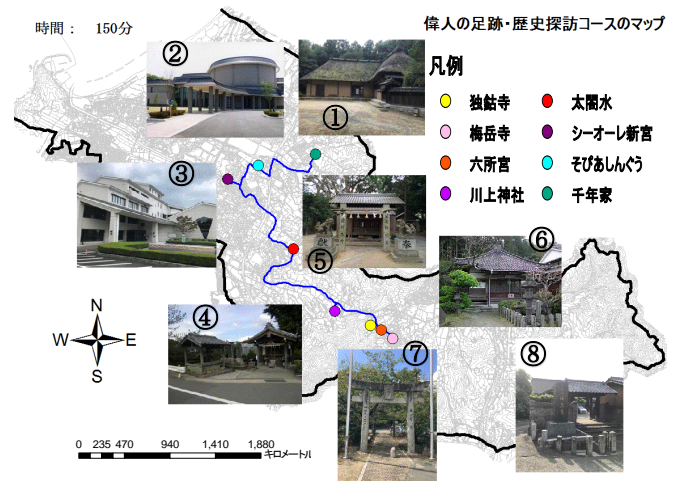


図2 偉人の足跡・歴史探訪コースのマップ

4. おわりに

本研究においては、新宮町を踏査して、フットパスに取り入れるべき事実を見出し、コースマップを作成した。その際に、以下の諸点に配慮した。

- 1) 新宮町のフットパスには、東西を結ぶ交流ネットワーク軸として、自然や歴史、文化などの資源を取り込んで整備するが、町内の交流を促進することができる。
- 2) 「そびあしんぐう」や「シーオーレ新宮」を通して町の伝統的な魅力や歴史を多くの来訪者に伝えて、地元の人々に自分の住んでいる地域に自信を持たせることを育てる。こうして、地域の矜持を高め、地域振興の主役になることができるように配慮する。

今後、新宮町のフットパス普及のために、地域の魅力を伝えていく組織づくりをしていく必要がある。「おもてなし協会(観光振興団体)」や町の地域振興所轄部課との調整、地元住民や来訪者へのヒアリング等が今後の課題である。

謝辞: 本研究は新宮町からの受託研究「東部地域における地域資源活用調査」(代表者: 山下三平)による。また、資料提供下さった新宮町の産業振興科に感謝申し上げます。

<参考文献>

- 1) 日本のフットパス協会ウェブサイト: <http://www.japan-footpath.jp/>
- 2) 土木学会西部支部研究発表会 pp.523-524 2018.3. 九州産業大学 藤井祐輔 論文 訪問撮影法に基づく立花山登山道のまちなみ景観の把握と評価
- 3) 新宮町のホームページ: <http://www.town.shingu.fukuoka.jp/>
- 4) NPO法人<みどりのゆび> 「フットパスによるまちづくりの公式」
- 5) 新宮町 navi 新宮町おもてなし協会公式: <http://shingu-navi.jp/>